

研究室

散歩



@農地情報モニタリング

弥生キャンパスの生協農学部食堂に08年末から、縦長の壁面ディスプレイが設置されている。映っているのは、民族衣装を着たタイの人々。展示が気になるのか、画面を見つめたまま食事を取る人の姿も多い。画面に映っているのは



みぞぐち まさる 溝口勝教授

(情報学環)

84年農学系研究科(当時)修士課程修了。農学博士。08年より現職。農学生命科学研究科と兼務。

ス族というタイの少数民族だ。実は、生協食堂で使われているすべてのホウレンソウは、彼らが作っている。この展示を作ったのが、溝口勝教授(情報学環)の研究室だ。

ツ畑などで観測を行ってきから、農地のリアルタイムの写真を閲覧できる。

産現場と消費者をつなぐた(溝口研のウェブサイトで、農地のリアルタイムの写真を閲覧できる)。

溝口教授は食の問題に関する

食の安全と生産者を守る

海外での例として、モニタリングが行われているの

「〇〇の野菜が危ない」という報道が一度なされてしまつと、その真偽にかかわらず、生産者は大変な害を被ることになる。「そこで、フィールドサーバーのよう

な仕組みがあれば、生産の現場が正しく農業を行って

をリアルタイムに観察できる点が特徴だ。国内では、群馬県嬭恋村のキャベツ畑や千葉県北総台地のピーナ

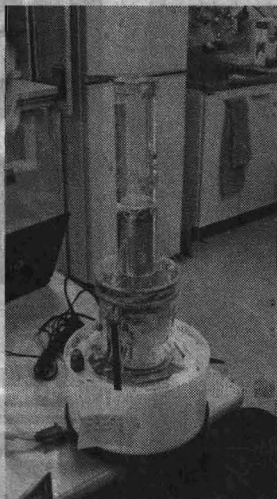
セスを理解するために、生

産現場が正しく農業を行って

に基準を上回る残留農薬が見つかったことを受け、生協はホウレンソウの輸入先をタイに変えていた。このことを聞いた溝口教授は、食の安全・安心確保のプロセスを理解するために、生

産現場と消費者をつなぐた(溝口研のウェブサイトで、農地のリアルタイムの写真を閲覧できる)。

産現場と消費者をつなぐた(溝口研のウェブサイトで、農地のリアルタイムの写真を閲覧できる)。



また溝口研では、フィールドサーバーを、環境保全の観点からも役立てようとしている。千葉県北総台地で春先に起こる土ほこりの原因を解明するために、フィールドサーバーを利用している。土ほこりの飛散量を測定し、天気予報と情報融合し、農業用水の一部を

マは「霜柱がなぜできるのか?」だった。「時代に応じて、新しいことをやっていたらいつの間にかこうなっていました」と笑う。

溝口研で使っているフィールドサーバー

農地にまくタイミングを知